

第6回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<高校の部 優秀賞>

「おばさんの言葉」

山田 歆奈

三月十一日東日本大震災。この震災は、日本中だけでなく、世界中を驚かせる大震災となりました。私はこの地震の時、学校の体育館にいました。天井からライトや板、ガラス等がたくさん落ちてきました。家族と連絡がとれないまま、電車が動いていないため、自転車で一時間半以上かけて家に向かいました。帰り道、私は変わり果てた外の様子を見ました。道路がゆがんでいたり、建物が傾いていたり。夜になると海の方面が真っ赤に燃えていました。あの光景は今でもはっきりと目に焼き付いています。

家族と無事合流した私は、避難所である近所の学校へと向かいました。人々の目は恐怖心でいっぱい目でした。毎日毎日大きな余震が続いたため、皆さすがに寝不足でした。でもそんな中、見ず知らずのおばさんがこんなことを言って下さいました。「今は確かに辛い。でもね、私が笑顔でいなきゃ、この避難所はずっと暗いままだよ。だからまずは笑顔でいなきゃ。」私はその言葉を聞き、自分自身が恥ずかしくなりました。本当は私達のような学生が避難所を笑顔にしなければならないのです。それなのに私は…。そのおばさんの言葉を聞いてから、私は物事を前向きに考えるようにしました。

あれから約六ヶ月、少しずつではありますが、街はだんだんと復興しています。しかし、大きく被害を受けた場所はまだまだ復興したとは言えません。私が動けばまた元通りになれるという力もありません。何もできない私にできること、それは笑顔で前向きでいることです。何もできないけれど、一人でも多くの方が笑顔になれば早く復興できると信じています。

「東北生まれ、東北育ち」私はこのことに誇りを持っています。こんな状況でもほぼ全員の東北人は明日を強く生きようという意思があるからです。大丈夫。完全復活するまで絶対に笑顔は絶やしません。